

【外国語学部】令和7年度 FD 活動の「年間報告」

1. 学部独自の FD 活動についての報告(*は必須項目)

(1) 公開授業・ワークショップ

※公開授業と公開授業に関するワークショップが対象

① 公開授業：

- ・科目「スマホ・パソコンによる外国語学習」「AI による外国語学習」
- ・担当教員：神谷健一先生(大阪工業大学)
- ・実施日時/場所：11月28日(金)4限、12月5日(金)3限、12月5日(金)4限、1月16日(金)3限、SR204 教室
- ・*参加人数 8 名(職員・学生が参加した場合は内訳を記載してください)

② ワークショップ：「AI デジタル技術を活用した外国語習得」

- ・実施日時/場所：7月16日
- ・*参加人数 32 名(職員・学生が参加した場合は内訳を記載してください)
- ・ワークショップでの意見交換内容

神谷先生を講師に生成 AI(ChatGPT)を活用した効果的な外国語学習手法について学習した。特定のレベルに限定せず、幅広い学習者層を対象とした活用方法を中心に、生成 AI の教育的可能性、授業設計への応用、注意点について講義を受けた。その後、参加教員が実際に生成 AI を用いて外国語学習支援の活動を作成・実践し、授業での活用可能性を検討した。

今回の研修を通じて、生成 AI は外国語学習において大きな可能性を持つ一方、適切な使い方を理解した上で活用する必要があることを再確認した。今後は、授業内外での AI 活用方法をさらに検討し、学習者の自律的な学びを支援するための実践を継続していく。

(2) その他研修会等

※(1)以外の学部 FD として実施する研修会が対象(人権研修会を除く)

- ・テーマ
- ・概要
- ・実施日
- ・*参加人数 名(職員・学生が参加した場合は内訳を記載してください)

2. 総括(今年度の学部 FD を通して得られた気づきや見つかった課題等)

今年度の FD では、生成 AI を活用した外国語学習の新たな手法について学ぶとともに、実際にワークショップ形式で体験することで、その可能性と課題を具体的に把握することができた。生成 AI は教材作成や学習支援において大きな有用性を持つ一方、各授業の目的や構造にどのように落とし込むかについては、依然として検討すべき点が多いことが明らかとなった。

また、教員側のスキルやリテラシーの差が、AI 活用の効果に直結することも確認された。生成 AI は日進月歩で進化しており、この一年だけでも大きな変化が見られるため、教員自身が継続的に学び、変化に対応していく姿勢が不可欠である。

総じて、生成 AI は外国語教育に新たな可能性をもたらす一方、その活用には計画的な導入と教員のスキル向上が求められることが、今回の FD を通じて得られた重要な示唆である。

3. 次年度に向けての取り組み

現在、本学部では学部改革の方向性を視野に入れながら、外国語学修の在り方や教育手法を見直す段階に来ている。これまでの授業運営や学習成果を振り返ると、従来の考え方では十分に対応しきれない課題が顕在化しており、教育内容・方法の再構築が求められている。

まず、ここ数年の履修状況、成績分布、GPA 推移などのデータを精査し、学習成果の現状を客観的に把握することが不可欠である。これらのデータ分析を通じて、学生の学習行動や到達度の傾向を明らかにし、現行カリキュラムや教育手法の課題を教員間で共有することが重要となる。

その上で、学部改革の方向性を踏まえつつ、今後の外国語学修の在り方について検討していく必要がある。その際、生成 AI をはじめとする新しい学習支援ツールの活用可能性を視野に入れながら、教育効果を高めるための授業設計や評価方法の改善を検討する。

※この内容は当該年度終了後、本学における FD 活動の一環として、本学 HP に掲載します。